

教科名	地歴・公民			校 種	高等学校
科 目 の 配 当					
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など，授業の形態	
1 年	公共	必	2		
	歴史総合	必	2		
2 年	世界史探究	選	2		
	日本史探求	選	2		
	地理総合	選	2		
	政治経済	選	2		
3年	世界史探究	選	4		
	日本史探究	選	2		
	地理探究	選	2		
	世界史演習	選	2		
	日本史演習	選	2		
	選択政経	選	2		

科目名（教科名）		公共（地歴・公民科）			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	1. 文化・環境・経済・政治の構造及び歴史的経緯を把握し、総合的に日本及び国際社会のあり方を考える。 2. 人類的課題を認識し、主体的に考察し、公正な判断力をつける。 3. 時事問題をトピック的に取り上げ、社会問題を自分に引きつけて考える。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	社会を作る私たち			・ 人間とは何か	
	人間としてよく生きる			・ 幸福とは何か	
	民主社会の倫理			・ 社会とは何か	
	民主国家における基本原理			・ 民主主義の作り方	
	日本国憲法の基本的性格			・ 憲法はなぜ大切なのか	
2 学 期	日本の政治機構と政治参加			・ 政治参加の意義	
	現代の経済社会			・ 経済における効率と平等とは何か	
	経済活動のあり方と国民福祉			・ 人口減少時代の日本社会 ・ 都市と地方の持続可能な発展とは	
3 学 期	国際社会と人類の課題			・ 国家の安全と人間の安全	
	国際経済の動向と課題			・ 国際経済を席卷するプラットフォーム	
	持続可能な社会づくり			・ SDGsの実現に向けて ※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えを行うことがある。	
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	テストの得点、知識を問う発問への応答など			・ 定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
	【思考・判断力・ 表現】 (30%)	テストの得点、資料などから思考力を問う発問への応答など			・ 定期試験の思考問題 (例) 意見記述、語句説明、論述問題
	【主体的に学習 に取り組む態度】 (30%)	授業参加度や発言・質問内容、提出物など			・ ノート作り ・ 授業参加度
評価の方 法と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70 % 平常点 30 %				
教科書・ 副教材等	● 教科書：「詳細 公共」（出版社名） ● 副教材：「テーマ別資料 公共2025」（とうほう）				

科目名（教科名）		歴史総合（ 地理・歴史科 ）			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	(1) 近現代の歴史に関わる諸事象について、世界と日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近代の歴史を理解するとともに、史料にある様々な情報を「見抜く」目を持てるようにする。				
	(2) 近現代の歴史に関わる事象の意味・特色などを、年代、推移、比較、相互関連や現在との結びつきに着目して、概念づけして多角的に考察し、現代に続く課題の解決を構想する力、また考察、構想を説得的に説明したり、それらを基に議論する力を養う。				
	(3) 近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。また多面的・多角的な考察・理解を通して涵養される世界人としての姿勢について自覚させる。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学期	近代化の胎動 近代化の諸相			・欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 ・欧米諸国と日本の国民国家形成 ・帝国主義の時代	
2 学期	国際秩序の変化と大衆化			・資本主義・帝国主義の危機 ・第一次世界大戦と大衆 ・経済危機と第二次世界大戦	
3 学期	国際秩序の変化や大衆化（続） グローバル化と現代			・冷戦と脱植民地化 ・多極化する世界 ・グローバル化と現代世界 ※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。	
評価の 観点	【知識・技能】 (50%)	・年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど			・定期試験の知識問題 (例) 正誤判断、読み取り
	【思考・判断力・表現】 (30%)	・レポートなどの提出課題に書かれた感想、定期試験における論述問題や史料読解ができているかなど。			・各授業で問うMQへの応答 (例) レポート、プリント 語句説明、定期試験における論述問題や資料読解など
	【主体的に学習に取り組む態度】 (20%)	・授業内で取り組むノート記述やレポートで積極的に自らの意見を設定できているかなど。			・振り返り（ノート） ・各授業での問いに対する応答 ・授業態度
評価の方法と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・レポート・ミニッツペーパーを加味し総合点を算出する。 ● 割合：【知識・技能】：50%【思考・判断】：30%【主体】：20% ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。				
教科書・副教材等	● 教科書：「歴史総合」（実教出版） ● 副教材：「問いからはじまる歴史総合」（とうほう）				

科目名（教科名）		世界史探究（地理・公民科）				
学年		2	単位数	2	必修・選択・展開	選択
目的	1 世界が多文化・差異化・多様化を拡大させる中で、近現代以前の地域や国のそれぞれの個性を学び、他国・他民族への理解を深める。					
	2 紛争や戦争が教科書の中だけのものではないと理解し、世界史を探究することで生徒一人ひとりが平和への道を模索し続ける姿勢や能力を身につける。					
	3 新カリキュラムでの受験では、思考力・判断力を求められるため、課題解決型・情報収集型授業を意識する。					
学 期		授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	第1章 文明の成立と古代文明の特質			・文明の誕生 ・古代オリエント文明とその周辺		
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界			・南アジアの古代文明 ・中国の古代文明		
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開			・南北アメリカ文明		
	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成			・中央ユーラシア～草原とオアシスの世界 ・秦漢帝国		
2 学 期	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成			・中国の動乱と変容 ・東アジア文化圏の形成		
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向			・仏教の成立と南アジアの統一国家		
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開			・インド古典文化とヒンドゥー教の定着		
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国			・東南アジア世界の形成と展開		
3 学 期	第9章 大交易・大交流の時代			・イラン諸国家の興亡とイラン文明・ギリシア人の都市国家・ローマと地中海支配・キリスト教の成立と発展		
	第10章 アジア諸帝国の繁栄					
評価の 観点	【知識・技能】 (50%)		定期試験やワークを用いた小テストの得点			定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
	【思考・判断力・表現】 (30%)		授業中の発問への応答、提出課題の内容、資料や史料を読み取る力など			定期試験の思考問題 (例) 語句説明、論述問題 ・レポート ・発表
	【主体的に学習に取り組む態度】 (20%)		授業態度、発言の積極性、グループワークでの積極性			・グループでの話し合い ・授業態度 ・課題の提出状況 ・訂正物の欄外記入量
評価の方法と割合		●評価方法：定期試験における成績状況と提出物・発表・授業態度を加味し総合点を算出する。 ●割合：定期試験約70% 平常点約30点 ※割合は必要に応じて変更する場合がある。				
教科書・副教材等		●教科書：「詳説 世界史 世界史探究」（山川出版社） ●副教材：「NEW・STAGE 世界史詳覧」（浜島書店）				

科目名（教科名）		日本史探究（地理歴史科）				
学年		2	単位数	2	必修・選択・展開	選択
目的	1. 歴史を多角的・論争的に学習して、歴史を動かす要因及び歴史と人間の主体的な関わりについて考える。 2. 日本の歴史が、諸外国、特に東アジアとの関係の中で成り立っていることを学び、国際理解、近隣諸国への理解を深め、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。 3. 過去に学ぶことは現代に生きる私たちの指針であることを理解する。					
学 期	授 業 の 項 目			内 容		
1 学 期	第1編 先史・古代の日本と東アジア			先史社会の生活と文化 歴史資料と先史/古代の展望 古代社会の形成と展開		
2 学 期	第2編 中世の日本と世界			中世社会の成立 歴史資料と中世の展望 中世社会の展開		
3 学 期	第3編 近世の日本と世界			近世社会の形成 歴史資料と近世の展望 近世社会の展開		
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	テストの得点、知識を問う発問への応答など			・ 定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断	
	【思考・判断力・ 表現】 (30%)	テストの得点、資料などから思考力を問う発問への応答など			・ 定期試験の思考問題 (例) 意見記述、語句説明、論述問題	
	【主体的に学習 に取り組む態度】 (30%)	授業参加度や発言・質問内容、提出物など			・ ノート作り ・ 授業参加度	
評価の方 法と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70 % 平常点 30 %					
教科書・ 副教材等	●教科書： 「日本史探究」 山川出版社 ●副教材： 「新詳 日本史」 浜島書店 ●ワークブック： 「要点マスター日本史探究」 東京書籍					

科目名（教科名）		地理総合（ 地理・歴史科 ）			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	(1) 地図資料や地理情報システム（G I S）で現代世界をとらえる。 (2) 系統地理的・地誌的な探究の方法を学ぶ学習を通して、地理的な見方や考え方・地理的技能を習得する。 (3) 広い視野に立ち、グローバル化する現代世界の諸課題について主体的に考え、行動する自覚と態度を養う。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	地図でとらえる現代世界 国際協力と国際理解（Ⅰ）			・ 地図と地理情報システム ・ 結び付きを深める現代世界 現代世界の国家と領域・グローバル化する世界 ・ 生活文化の多様性と国際理解（自然環境を中心に） 世界の地形と人々の生活	
2 学 期	国際協力と国際理解（Ⅰ）つづき 国際協力と国際理解（Ⅱ）			世界の気候と人々の生活 ・ 世界の言語・宗教と人々の生活 ・ 歴史的背景と人々の生活 ・ 世界の産業と人々の生活	
3 学 期	国際協力と国際理解（Ⅲ） 持続可能な地域づくりと私たち			・ 地球的課題と国際協力 地球環境問題，資源エネルギー問題，人口問題 食料問題，都市・居住問題 ・ 自然環境と防災 ・ 生活圏の調査と地域の展望 ※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。	
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	基礎知識と習得と理解ができているか ※大学入試共通試験に対応できる力量も考慮する			・ 定期試験の知識問題 空欄補充・正誤判断など
	【思考・判断力・ 表現】 (30%)	知識や地理情報を活用して多面的に世界を見ることができるか 上記の知識を活用して現代世界の課題に着目できるか			・ 定期試験の思考問題 意見記述，文章読解，論述など ・ レポート，発表など
	【主体的に学習 に取り組む態度】 (30%)	系統的小および地誌的分野の知識や情報を手がかりとして，自分自身で興味・関心を深めていけるか			・ 授業中の質疑応答 ・ 提出物の内容や提出状況 ・ レポートや発表の内容
評価の方法 と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70% 平常点 30% ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。				
教科書・ 副教材等	● 教科書：「新地理総合」（帝国書院），「新詳高等地図」（帝国書院） ● 副教材：「地理総合演習ノート」（啓隆社），「新詳地理資料COMPLETE」（帝国書院）				

科目名（教科名）		政治・経済（ 地理・公民科 ）			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	1. 1年次の公共との関連性・連続性を意識した授業展開を意識し、現代日本や世界の諸課題の解決に向けて、習得した知識を幅広く活用する能力を身につける。 2. 現代日本や世界の諸課題の解決に向けて、習得した知識や資料・図版の読解力・思考力・判断力・表現力などを総合的に活用する能力を身につける。 3. 各国の政治形態などを学び、優劣や善悪という主観的な判断基準ではなく、その地域の特性等を理解した上で、多面的・多角的に考察し、構想する能力を身につける。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学期	【現代日本の政治】 日本の政治制度と政治参加 【現代の国際政治】 国際政治の動向と課題			(高1公共で扱った内容の続きから実施する) ・選挙制度 ・地方自治と政治参加 ・国際社会と国際法、国際連合 ・こんにちの国際政治 ・人種、民族問題 ・国際社会における日本の役割	
2 学期	【現代日本の経済】 現代の経済社会 現代の日本経済と福祉の向上 【現代の国際経済】 国際経済理論 国際経済の動向と課題			・経済活動の意義 ・経済主体と市場 ・金融の役割と日本の財政の課題 ・公害や労働問題 ・外国為替市場のしくみ ・地球環境問題、資源エネルギー問題 ・経済協力と日本の役割	
3 学期	【現代日本における諸課題の探究】 【国際社会における諸課題の研究】			・少子高齢化・グローバル化 ・ワークライフバランス ・難民問題 ※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えをおこなうことがある。	
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど			・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
	【思考・判断力・表現】 (30%)	授業中の発問への応答、提出課題の内容、史料・資料を読み取る力など			・定期試験の思考問題 (例) 語句説明、論述問題 ・レポート ・発表
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	授業中の積極的な発言や質問、提出物等で自ら進んで課題を設定できているかなど。			・グループでの話し合い ・授業態度・課題の提出状況 ・提出物の欄外記入量
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・発表・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 約70% 平常点 約30% ※ 割合は、必要に応じて変更する場合がある。				
教科書・副教材等	● 教科書 : 最新 政治・経済 (実教出版) ● 副教材 : 政治・経済資料2025 (とうほう)				

科目名（教科名）		世界史探究（地理・歴史科）			
学年	3	単位数	4	必修・選択・展開	選 択
目的	1. 世界が多文化・差異化・多様化を拡大させる中で、近現代以前の地域や国のそれぞれの個性を学び、他国・他民族への理解を深める。 2. 紛争や戦争が教科書の中だけのものではないと理解し、世界史を探究することで生徒一人ひとりが平和への途を模索し続ける姿勢や能力を身につける。 3. 昨年度、1年目を迎えた新カリキュラムでの大学受験であるが、共通テストは思考力・判断力・思考力を求められるものの、私大一般入試は従来とほとんど変化がなかったことを踏まえ、課題解決型・情報収集型授業を意識するとともに、知識理解も深めていく。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	第4章	西アジアと地中海周辺の国家形成	・ローマと地中海支配 ・キリスト教の成立と発展		
	第5章	イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	・アラブの大征服とイスラーム政権の成立		
	第6章	イスラーム教の伝播と西アジアの動向	・ヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム教の諸地域への伝播		
	第7章	ヨーロッパ世界の変容と展開	・西アジアの動向 ・西ヨーロッパの封建社会とその展開		
	第8章	東アジア世界の展開とモンゴル帝国	・東ヨーロッパ世界の展開 ・西ヨーロッパ世界の変容		
	第9章	大交易・大交流の時代	・アジア諸地域の自立化と宋 ・モンゴルの大帝国		
	第10章	アジア諸帝国の繁栄	・アジア交易世界の興隆		
2 学 期	第11章	近世ヨーロッパ世界の動向	・ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容		
	第12章	産業革命と環太平洋革命	・オスマン帝国とサファヴィー朝 ・ムガル帝国の興隆		
	第13章	イギリスの優位と欧米国民国家の形成	・ルネサンス ・宗教革命 ・主権国家体制の確立		
	第14章	アジア諸地域の動揺	・北欧・東欧の動向 ・産業革命		
	第15章	帝国主義とアジアの民族運動	・アメリカ合衆国の独立と発展		
	第16章	第一次世界大戦と世界の変容	・フランス革命とナポレオンの支配		
	第17章	第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の動向		
	第18章	冷戦と第三世界の台頭	・第2次産業革命と帝国主義 ・第一次世界大戦とロシア革命		
3 学 期					
	評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	定期試験での得点、ワークを用いた小テストの得点		・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
		【思考・判断力・表現】 (30%)	授業中の発問への応答、提出課題の内容、史料・資料を読み取る力など		・定期試験の思考問題 (例) 語句説明、論述問題 ・レポート ・発表
【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)		授業態度、発言の積極性、グループワークでの積極性		・グループでの話し合い ・授業態度・課題の提出状況 ・提出物の欄外記入量	
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・発表・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 約70% 平常点 約30% ※ 割合は、必要に応じて変更する場合がある。				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「詳説 世界史 世界史探究」(山川出版社) ● 副教材 : 「New Stage 世界史詳覧」(浜島書店)				

科目名（教科名）		日本史探究（ 地理・歴史科 ）			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	1. 江戸時代から明治時代への変遷は、現代の日本の諸制度や文化・慣習が誕生していった過渡期でもあるため、我々の身近な出来事・事象を見つめなおすきっかけをつかむ。 2. 日本の歴史が、諸外国との関係の中で成り立っていることを学ぶことにより、国際理解・近隣諸国への理解を深め、また、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。 3. 昨年度、1年目を迎えた新カリキュラムでの大学受験であるが、共通テストは思考力・判断力・思考力を求められるものの、私大一般入試は従来とほとんど変化がなかったことを踏まえ、課題解決型・情報収集型授業を意識するとともに、知識理解も深めていく。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	第3編 近世の日本と世界 第3章 近世社会の展開 第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け 第2章 歴史資料と近現代の展望 第3章 近現代社会の展開 1節 近代的制度の導入と新しい国際関係			・江戸初期の外交から鎖国までの流れを理解させるとともに、なぜ鎖国を行ったのかを考える。 ・討幕へ時代が大きく動く過渡期であるため、各藩の思惑や幕府の動きを重視する。 ・江戸幕府が開国に踏み切るまでの流れを海外情勢に触れつつ、理解する。 ・薩摩藩・長州藩の動きを中心に倒幕運動の流れを学ぶ。 ・新政府の職制を学ぶ。	
2 学 期	2節 国民国家と資本主義の成立 3節 両大戦間期の日本 4節 第二次世界大戦と日本 5節 占領と改革 6節 国際社会への復帰と高度経済成長 7節 アジア情勢の変化と経済大国日本			・日本人の民権意識が高まり、国会開設・憲法制定に至るまでの流れを理解する。 ・日本が列強に並び、戦争に突入していく原因を理解する。 ・軍部を中心とした現状打破を望む世論の高まりを理解する。 ・GHQによる占領下での民主化政策の流れを学ぶ。 ・急速に復興を果たす日本と、再び戦争の危機に陥った国際社会との関わりを理解する。 ・戦後復興を果たした日本経済の流れを学ぶ。 ・日本が先進国へ発展していく流れを学ぶ。 ※上記授業計画は、授業展開や生徒の状況から変更する場合があります。	
3 学 期					
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	定期試験での得点、ワークを用いた小テストの得点			・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
	【思考・判断力・表現】 (30%)	授業中の発問への応答、提出課題の内容、史料・資料を読み取る力など			・定期試験の思考問題 (例) 語句説明、論述問題 ・レポート ・発表
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	授業態度、発言の積極性、グループワークでの積極性			・グループでの話し合い ・授業態度・課題の提出状況 ・提出物の欄外記入量
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・発表・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 約70% 平常点 約30% ※ 割合は、必要に応じて変更する場合があります。				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「日本史探究」 (東京書籍) ● 副教材 : 「新詳日本史」 (浜島書店)				

科目名（教科名）		地理探究（ 地理・歴史科 ）			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	(1) 世界の地理的事象を系統地理的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。 (2) 現代世界の諸地域を、歴史的・文化的背景をふまえて地誌的に考察する方法を習得する。 (3) 地理的な見方や考え方を培い、国際社会を主体的に生きるための自覚・資質を習得する。 (4) 大学共通入学試験受験での高得点取得のための実力を要請する。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	系統的分野の完成 世界地誌分野（Ⅰ）			高2の地理総合をふまえた系統的分野の補足 ・資源と産業 ・交通・通信と観光、貿易 ・人口、村落・都市 ・アジア、アフリカ	
2 学 期	世界地誌分野（Ⅱ） 現代世界におけるこれからの日本の 国土象 共通試験対策演習			・ヨーロッパ ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア ・将来の国土の在り方 ・持続可能な国土象の探究 ・共通試験過去問の研究	
3 学 期				※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。	
評価の 観点	【知識・技能】 40%	基礎知識と習得と理解ができているか ※大学入試共通試験に対応できる力量も考慮する			・定期試験の知識問題 空欄補充・正誤判断など
	【思考・判断力・表現】 30%	知識や地理情報を活用して多面的に世界を見ることができるか 上記の知識を活用して現代世界の課題に着目できるか			・定期試験の思考問題 意見記述、文章読解、論述など ・レポート、発表など
	【主体的に学習に取り組む態度】 30%	系統のおよび地誌的分野の知識や情報を手がかりとして、自分自身で興味・関心を深めていけるか			・授業中の質疑応答 ・提出物の内容や提出状況 ・レポートや発表の内容
評価の方法と割合	● 評価方法：定期試験における成績状況と提出物・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合：定期試験 70% 平常点 30% ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。				
教科書・副教材等	● 教科書：「新詳地理探究」（帝国書院），「新詳高等地図」（帝国書院） ● 副教材：「新詳地理資料COMPLETE」（帝国書院）				

科目名（教科名）		世界史演習（地理・公民科）			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択
目的	1 大学受験をめざすための知識や実力を修得する。 2 世界の歴史を資料や史料に基づいて考察し、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら広い視野で理解する。 3 文化の多様性や複合性を考察することによって歴史的思考を培い、国際社会に貢献するための自覚と資質を養う。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	高2で学習することのできなかった地域・時代・分野の補足 高3の後半に学習する20世紀、特に第一次世界大戦からの内容の講義			・ギリシア文化 ・ヘレニズム文化 ・ローマ文化 ・ビザンツ文化 ・イスラーム文化 ・西欧中世文化 ・（前史）列強の世界分割と列強体制の二分化 ・第16章 第一次世界大戦と世界の変容 ・第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 ・第18章 冷戦と第三世界の台頭 ・第19章 冷戦の終結と今日の世界	
2 学 期	大学入試共通テストなどの問題演習			大学入試共通テストの実践問題を中心に、私大入試野過去問題を解き進めながら実力をつける。	
3 学 期	入試直前の問題演習			受験する大学の過去の入試問題を解くことによって問題の傾向をつかみ、さらには時間配分などの技術を身につける。 国公立の二次試験対策として、論述問題の演習を行う。	
評価の 観点	【知識・技能】 40%				
	【思考・判断力・表現】 30%				
	【主体的に学習に取り組む態度】 30%				
評価の方法と割合	●評価方法：出欠のみ記録 ●割合：				
教科書・副教材等	●教科書：「詳説 世界史 世界史探究」（山川出版社） ●副教材：「NEW・STAGE 世界史詳覧」（浜島書店）				

科目名（教科名）		日本史演習（ 地理・歴史科 ）				
学年		3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	1. 日本史で大学受験をめざす生徒に対する、受験知識を中心に学習する。 2. 日本史探究で学習しきれない文化史・戦後史を学ぶ。 3. 受験に必要な史料の読解、図説・資料の解説、および私学・センター入試対策としての問題演習を行う。 4. 昨年度、1年目を迎えた新カリキュラムでの大学受験であるが、共通テストは思考力・判断力・思考力を求められるものの、私大一般入試は従来とほとんど変化がなかったことを踏まえ、課題解決型・情報収集型授業を意識するとともに、知識理解も深めていく。					
学 期	授 業 の 項 目				内 容	
1 学 期	第1編 先史・古代の日本と東アジア 第3章 古代社会の形成と展開 第2編 中世の日本と世界 第3章 中世社会の展開 第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成				・飛鳥の朝廷と文化 ・律令国家の形成と白鳳文化 ・平城京と天平文化 ・国風文化 ・鎌倉の仏教と文化 ・室町文化 ・桃山文化 ・幕藩体制下の社会の発展 ・薩摩藩・長州藩の動きを中心に倒幕運動の流れを学ぶ。 ・新政府の職制を学ぶ。	
2 学 期	第4編 近現代の地域・日本と世界 第3章 近現代社会の展開 5節 占領と改革 6節 国際社会への復帰と高度経済成長 7節 アジア情勢の変化と経済大国日本 大学過去問題・共通テスト過去問題				・占領と日本国憲法の成立 ・冷戦の開始と経済復興 ・国際社会への復帰と対米協調 ・高度経済成長 ・1970年代の国際社会と日本 ・安定成長への転換 ※上記授業計画は、授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。	
3 学 期						
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	史料や、過去問の理解度				
	【思考・判断力・ 表現】 (30%)	授業中の発問への応答、提出課題の内容、史料・資料を読み取る力など				
	【主体的に学習 に取り組む態度】 (30%)	授業態度、発言の積極性、グループワークでの積極性				
評価の方法 と割合	● 評価方法 ： 適宜行う演習問題・入試過去問題などではかる					
教科書・ 副教材等	● 教科書 ： 「日本史探究」（東京書籍） ● 副教材 ： 「新詳日本史」（浜島書店）					

科目名（教科名）		選択政経（ 公民科 ）			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	1. 1年次の公共との関連性・連続性を意識した授業展開を意識し、現代日本や世界の諸課題の解決に向けて、習得した知識を幅広く活用する能力を身につける。 2. 現代日本や世界の諸課題の解決に向けて、習得した知識や資料・図版の読解力・思考力・判断力・表現力などを総合的に活用する能力を身につける。 3. 各国の政治形態などを学び、優劣や善悪という主観的な判断基準ではなく、その地域の特性等を理解した上で、多面的・多角的に考察し、構想する能力を身につける。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	第1編 現代日本の政治 2. 日本国憲法と基本的人権 3. 日本の政治制度と政治参加			・日本国憲法の成立と基本的人権の尊重 ・平和主義 ・地方自治と住民福祉 ・政党政治 ・選挙制度	
2 学 期	第2編 現代日本の経済 2. 現代の日本経済と福祉の向上 第3編 現代日本における諸課題の探究			・中小企業と農業 ・消費者問題 ・公害防止と環境保全 ・労働問題と労働者の権利 ・持続可能な地域社会の在り方を考える ・持続可能な農業を考える ・ワークライフバランスの実現を考える ※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えをおこなうことがある。	
3 学 期					
評価の 観点	【知識・技能】 (40%)	定期試験での得点、ワークを用いた小テストの得点			・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断
	【思考・判断力・ 表現】 (30%)	授業中の発問への応答、提出課題の内容、 史料・資料を読み取る力など			・定期試験の思考問題 (例) 語句説明、論述問題 ・レポート ・発表
	【主体的に学習 に取り組む態度】 (30%)	授業態度、発言の積極性、グループワークでの積極性			・グループでの話し合い ・授業態度・課題の提出状況 ・提出物の欄外記入量
評価の方 法と割合	● 評価方法 ： 定期試験における成績状況と提出物・発表・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 ： 定期試験 約70% 平常点 約30% ※ 割合は、必要に応じて変更する場合がある。				
教科書・ 副教材等	● 教科書 ： 最新 政治・経済（実教出版） ● 副教材 ： 政治・経済資料2024（とうほう）				